

報告

## 第7回地域史研究集会

## —飯田・下伊那から戦争と地域を考える—

今年度の地域史研究集会は、8月29・30日の2日間開催されました。今回は「戦争」という問題に関連した特集を組み、多くの方に参加していただきました。ロビーでは戦時下の児童と女学生に関する史料を写真パネルにして展示し、会場内では松尾出身の写真家藤本四八の写真展示がありました。また、図書館を会場に「青年団資料にみる飯田・下伊那の太平洋戦争」をテーマにした資料展示を8月の間行うなど、戦後60年以上がたち戦争の記憶が薄れていくなかで、あらためて戦争について考える機会になったのではないのでしょうか。

## 29日(土) 特集

## 「アジア・太平洋戦争にいたる道一霞ヶ関と飯田から」

1日目の特集では、上山和雄顧問研究員の趣旨説明のあと、東京大学教授の加藤陽子さんから、戦争と平和をめぐる現在の状況、日本とドイツとの戦争に対する記憶の違い、国民の戦争責任などについての講演がなされました。1930年代の日本は植民地を十全に経営した大植民地帝国であり、軍隊の後には多くの日本人商人・移民がついていったのだという説明が印象的でした。神戸大学教授の須崎慎一さんからは、新聞・雑誌史料を多用した信州郷軍同志会についての詳細な講演があり、左翼的な雰囲気が強かった下伊那では、1928年の3・15弾圧事件以後様々な方向へ運動が向かい、それらの変革志向が戦争へとつながっていった具体的様相をお話しいただきました。戦争体験者の仲田文之助さんからは、特攻に志願した経緯や、戦前の教育のあり方などについて、多くの調査結果を駆使してご講演いただきました。会場の反応も熱のこもったものとなり、質疑応答の時間が短いのが残念でしたが、複眼的な視点から戦争について考える場になりました。



加藤陽子さん  
(特集講演「歴史的に見た  
日中戦争の特殊性」)

## 30日(日) 小特集

## 「河野村長 胡桃澤盛について」

2日目の午前中は小特集を組み、戦時中に満州への分村移民を送り出した河野村の村長であった胡桃澤盛氏の生涯について、長男の胡桃澤健さん(豊丘村)と盛氏の日記の解説を進めている橋部進さん(飯田市)からご報告をいただきました。胡桃澤さんは盛氏の生涯と人物像をご自身の思いをこめて語られ、橋部さんは日記の記述を通して戦前の日本農村とそこにおける盛氏の葛藤の姿を紹介されました。質問も多く出され、会場からは早く日記を出版してほしいという声も聞かれました。

## 地域史研究の成果報告

2日目の小特集の後は、地域史に関する研究成果の報告がなされました。美術博物館の横村洋介学芸員より、満蒙開拓青少年義勇軍に参加し、戦後自然と人間とのかかわりを絵にし続けた仲村進についての報告、飯田西中学校3年生の皆さんによる職場体験の報告、多和田真理子調査研究員による近世座光寺村における山手と川手の対立についての報告、本島和人調査研究員によるブラジル移民の名簿を詳細に検討した報告、池田勇太研究員による武士の消滅に関する旗本近藤家の事例研究がありました。

集会の様子  
(特集講演

「昭和10年代の教育と人々の暮らし」  
仲田文之助さん)



## 第2回 歴史学オリエンテーション開催



7月31日に歴史学を学びたい高校生を対象とした第2回歴史学オリエンテーションを研究所内で行いました。当日は飯田高校や風越高校の生徒さんのほか、調査実習で来所した中央大学の学生さんや、地元の一般の方もいらっしゃいました。和やかな雰囲気の中、新研究員の池田と、顧問研究員・東京外国語大学教授の吉田ゆり子による、歴史学を学び始めた経緯や研究のおもしろさを語った講演や、各研究員が進めている研究のトピックをまとめた報告、実際の史料や絵図の解説などを行いました。参加された生徒さんから、「大学で歴史を学びたい」と思っていたので、大変参考になった」という感想を頂きました。

### 新刊紹介

## 「水引のまち飯田」

「わたしたちの飯田線」に続く  
待望のジュニア・ライブラリー2 発刊

昔から名古屋や浜松方面と長野県の奥地をむすぶ交通の要所にあった飯田は、江戸時代には城下町としてさかえました。

・生糸や刻みたばこ、凍み豆腐(高野豆腐)など、多くの地場産業がおこり、そのなかに紙すき業と、紙を加工した元結や水引もあげられます。

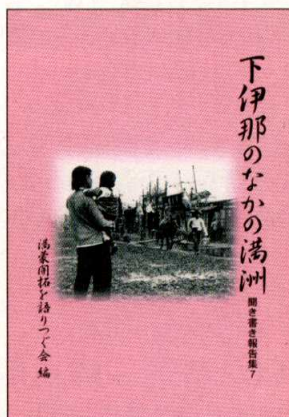
・飯田における紙産業の歴史や「水引」の発展について、親しみやすい文章と豊富な写真で存分にご覧いただけます。



吉田忠正著  
飯田市歴史研究所監修  
B5判  
堅牢製本  
48ページ  
オールカラー  
1,500円(税込み)

### 満蒙開拓を語りつくす会編

## 『下伊那のなかの満洲 聞き書き報告集7』



満蒙開拓を語りつくす会は、地域に残る満洲移民の記憶を聞き取り、満洲移民送出の実態を明らかにし、体験者の思いと記憶を報告集にまとめ伝えています。7集には10人の方々の語り、巻末には、8年間の活動の歩みを掲載しています。

B5判  
244ページ  
定価500円

#### ○主な内容

1. 川路分村で小学校教師をされていた98歳の方の記憶
2. 集団から遅れたために自決をまねがれた母子の記憶と戦後
3. 14歳で青少年義勇軍に参加した大鹿村と清内路村出身の方
4. 敗戦から30年以上も中国に残った鼎村と会地村出身の方
5. 残留孤児となり中国の地主の息子と結婚、その後帰国した御夫婦など。

飯田・下伊那地域に、戦後60年以上経った現在も消えずに残る満洲移民の傷跡。聞き取りをした満蒙開拓を語りつくす会は、今まで文字にして残されてこなかった満洲移民の実態を明らかにして、歴史資料(アーカイブズ)として次世代に伝えてゆきます。

問い合わせ 飯田市歴史研究所 TEL 0265-53-4670 FAX 0265-21-1173

2009  
下半期

## 飯田アカデミア

専門の研究者を講師に、歴史研究の最前線を分かりやすく講義します。ぜひご参加ください。

### 第53講座

講師

かんだ ゆづき  
神田 由築さん  
(お茶の水女子大学文教育学部准教授)

場所 りんご庁舎 3階会議室

(飯田市本町1丁目15番地  
飯田市地域交流センター)

第1  
テーマ

### 「江戸の浄瑠璃文化」

11月14日(土) 13:30~17:00

人形浄瑠璃芝居は、歌舞伎と並んで近世を代表する芸能です。講義では浄瑠璃文化に関わるさまざまな論点を提示しながら、近世後期の都市社会と文化の諸相について考えます。

第2  
テーマ

### 「淡路の人形芝居と飯田」

11月15日(日) 10:00~14:30

都市の芸能者集団は地方にも巡業して浄瑠璃文化を広めました。近世の飯田人形芝居は淡路の人形座と関係深いのです。講義では大坂や淡路の芝居との関連のなかで、飯田芝居を見直していきます。

- 受講料 1講座400円(資料代)
  - 申込み 電話、ファクシミリまたはEメールで、飯田市歴史研究所へお申込みください。  
※ファクシミリ、Eメールでのお申込みは住所・氏名・電話番号を明記してください。  
※電子申請 ながの電子申請サービス (<http://shinsei.e-nagano.lg.jp>) でもお申込みできます。
- ★諸事情により、日程等が変更になる場合があります。市広報等でお知らせしますので、ご注意ください。

この度、第7回飯田市地域史研究集会にお呼びいただき、10年ぶりに飯田・天龍峡の地を踏むことが出来ました。私の本格的な研究のスタートとなった信州郷軍同志会について話をさせていただいたわけですが、この講演を通じて、この地こそ、私の原点だったのだという思いを強くし、初めて訪れた1975年からのことが去来してきました。

ご尊父の日記を始め貴重な史料を拝見させて頂いた故森本信也様、貴重なお話を伺った上、時又のお宅で御幣餅をふるまっていたいただいた故小林八十吉様ご夫妻、故今村良夫様、当時、駒ヶ根市長だった故座光寺久男様といった方々のお顔が次々に浮んで来るのです。また中原謹司関係の貴重な史料を世に出すきっかけを与えて下さった中原喜代子様、ずうずうしくマイクロカメラで森本文書を撮影するのをお許しいただいた森本家の方々、さらには、戦後の日の丸同志会に興味を抱き、1980年代半ば、飯田を訪れた時、お話を伺うことができた故近松久様といった方々。近松様は、私に、下伊那の地域右翼・ファッション運動と関係の深い中谷武世（猶存社創立メンバー、1986年・勲一等瑞宝章）が1955年から死去直前まで出し続けた雑誌『民族と政治』を教えて下さり、私の戦後史の研究にも、大きなヒントを与えてくれました。そしてこうした様々な貴重な機会を得る橋渡しの役割を果たしていただいた齊藤俊江様を始めとする飯田図書館の方々……

今度の講演を通じて、現在、研究者として私があるのも、これらの飯田・下伊那の方々のおかげなのだという思いをいよいよ強くした次第です。私の研究の原点の地としての飯田・下伊那……それは同時に、松尾の弁天橋から眺める風越山や、天龍川の風景と相俟って、私個人の心の原点の一つともなっているのかもしれない。



## 飯田歴研賞2009受賞作品

歴研賞は、飯田・下伊那の地域史研究における優れた論文や著書等を表彰するものです。今年度の受賞作品をご紹介します。なお、「第7回地域史研究集会」(8月29・30日開催)で授賞式が行われ、受賞された方々には、表彰状等が贈られました。



8月29日 飯田信用金庫本店大会議室にて行われた飯田歴研賞授賞式

### 田中雅孝 『両大戦間期の組合製糸』(御茶の水書房、2009年)

特別賞  
蚕糸業が最盛期を極めた第一次世界大戦から、衰退に至る1930年代の時期まで、養蚕農民を組合員とする組合製糸は全国的に発展し、その中でも下伊那郡は顕著な発展を示しました。この組合製糸とそれを支えた養蚕を主とする下伊那の農村・農業は、幾人かの研究者の関心を惹き、多くの同時代的な研究と歴史的分析の対象となってきました。それらの大部分が個人的テーマ、研究に終わっているのに対し、本書は、下伊那郡の組合製糸とそれを支えた養蚕業、農村の包括的な分析を試みているところが大きく異なり、この時期の蚕糸業、組合製糸、農村に関する優れた研究です。

### 壬生雅穂 「下伊那地方におけるミチューリン農法の受容と衰退」(飯田市歴史研究所『年報6』、2008年所収)

論文部門  
本論文は、1950年代前半のソ連のスターリン時代の特異な一学説を基礎としたミチューリン農法の普及運動が、なぜ下伊那地方で全国でも先端の流行を見せたのかを、中心人物となった共産党員菊池謙一の動きを中心に追った興味深いものです。最も注目すべき論点は、ミチューリン運動を平和的に社会改革を行おうとした「平和路線」を意味していると評価した点であり、「環境と農業」を考える点でも現代的な視点を持っています。

### 平田正宏 『忍と力『破戒』のモデル 大江磯吉の生涯』(南信州新聞社出版局、2009年)

奨励賞  
本書は、島崎藤村作『破戒』の主人公丑松のモデルとなった大江磯吉に関して言及されてきた著述や史料を集大成し、新たに下殿岡村の矢沢尚氏所蔵文書から大江磯吉の手紙を翻刻するなど、新史料を加えて整理した著書です。磯吉の足跡を経路や交通手段などから丹念に明らかにするなど、磯吉の地元ならではの研究成果が見受けられ、地域社会の差別意識の解明と克服のための歴史研究の書です。

### 市澤英利 『東山道の峠の祭祀 神坂峠遺跡』(新泉社、2008年)

本書は、古代信濃の玄関であった神坂峠で実施された祭祀や、峠を支えた麓の村の変遷などを通して、峠そのものの歴史を復元した意欲的な書物です。特に神坂峠の変遷や遺構・遺物等考古資料の解説・分析に止まらず、読者が峠を身近に感じるような工夫が随所に見られ、郷土愛と科学の目という矛盾しがちな二つの立場が調和しています。

### 私たちのふるさと座光寺編集委員会 『私たちのふるさと座光寺』(座光寺公民館、2009年)

座光寺地区の方々を中心に構成された編集委員会の編集による、地域の歴史と現状を記すものです。座光寺の自然・歴史や現状に関する基礎的な事項を分かりやすい文体で、丁寧に解説する優れた成果となっています。教育現場でもテキストとなると思われ、市民が地域社会の歴史と現状に関する基礎的な事項を知る上で、構成が工夫されています。

# 歴研ゼミ

10月・11月の予定

実践的に歴史研究の方法を学ぶ講座です。  
各ゼミでは随時受講生を受け入れています。

■時間 午後7時～8時40分 (各ゼミ共通)

近世史ゼミ	建築史ゼミ	近現代史ゼミ
<b>■開催日</b> 10月6日・20日 /11月17日 (第1・第3火曜日)	<b>■開催日</b> 10月13日 /11月10日 (第2火曜日)	<b>■開催日</b> 10月8日・22日 /11月12日・26日 (第2・第4木曜日)
<b>■担当</b> 竹ノ内雅人 (研究員)	<b>■担当</b> 金澤雄記 (研究員)	<b>■担当</b> 田中雅孝 (調査研究員)

## 歴研日誌

8月

- 1～3日 東京外国語大現状記録調査
- 1・2日 美博まつり建築ブース
- 4～6日 職場体験学習一遠山中学校2年生
- 4～6日 旧役場文書調査一山本・三穂・川路・千代・松尾・下久堅・上郷・上久堅・中央図書館 (金沢大学)
- 4日 近世史ゼミ「ふたつの年季証文」
- 7日 愛知県史スタッフ資料調査
- 11日 横浜国立大学多和田ゼミ来所
- 11日 煙草乾燥蔵調査
- 12日 座光寺久男氏所蔵文書返却
- 17～19日 座光寺小学校史料調査
- 19日 『下伊那のなかの満洲 聞き書き報告集7』発刊
- 7・18・20・22日 本棟造調査
- 25日 岡田昭夫氏家所蔵文書返却一箕瀬
- 26日 上郷正命寺資料調査
- 27日 近現代史ゼミ「『飯田町のくらし4』編集会議」
- 29日 研究会会議一りんご庁舎
- 29・30日 歴研賞授賞式  
 研究集会 特集「アジア・太平洋戦争にいたる道  
 一飯田信用金庫 一霞ヶ関と飯田から一」  
 本店大会議室 小特集「河野村長 胡桃澤盛について」  
 研究報告
- 30日 『飯田市歴史研究所 年報7』発刊

9月

- 1～3日 金沢大学史料調査
- 1～4日 職場体験学習一飯田西中学校2年生
- 1日 煙草乾燥蔵調査
- 1日 近世史ゼミ「関所通行簡略化の願い」
- 1日 市民研究員応募締切
- 2日 本棟造調査
- 3～5日 宇都宮大学史料調査
- 5日 佐々木家所蔵図書搬入作業一鼎・北方
- 7～11日 新潟大学夏期講義一池田研究員
- 8～10日 職場体験学習一旭ヶ丘中学校2年生
- 8日 建築史ゼミ「宿」
- 10日 近現代史ゼミ「『飯田町のくらし4』編集会議」
- 10・11日 愛知県鍋田千拓調査
- 12日 定例研究会「20世紀における村の公共性  
 一下久堅南原集落を事例に一」坂口正彦
- 12日 「高教組教育研究集会」講義一齊藤調査研究補助員
- 15～18日 清内路村史料調査実習  
 一東京大学日本史学研究室
- 15日 近世史ゼミ「飯田町の表徳・源氏名」
- 24日 ジュニア・ライブラリー2『水引のまち飯田』発刊
- 24日 近現代史ゼミ「文献講読『昭和の記憶を掘り起す』」
- 26日 高森町九条の会講義「下伊那と満洲」  
 一齊藤調査研究補助員
- 29日 「丘の上」研究会

- 継続調査 部奈一朗氏所蔵文書、松澤卓治氏所蔵文書、上松家所蔵文書、菊池謙一・幸子史料、北原嘉雄氏所蔵文書、小林八十吉氏所蔵文書、原常吉氏所蔵文書、今村八束氏所蔵文書、岩戸久義氏所蔵文書、本多広文氏所蔵文書、松田初美氏所蔵文書、田中伍市関係史料、中原謹司氏史料、嶋岡和治氏所蔵文書、篠田貞三氏所蔵文書、虎岩区有文書、南信濃自治振興センター所蔵文書、佐々木登志男氏資料

# シリーズ 地域史講座 松尾大森本の家と周辺の社会

- 10月31日(土) 午後2時～午後4時  
 「八幡宮と嶋田村」  
 ・講師 竹ノ内雅人(研究員)  
 ・場所 松尾公民館 2階講座室

今年発行されました「史料で読む 飯田・下伊那の歴史1 松尾大森本の家と周辺の社会」を素材に、松尾地区やその周辺の社会を考えるシリーズです。

1回目は鳩ヶ宮八幡宮と嶋田村との関係や、境内の山を中心にみていきます。

## 定例研究会

研究活動促進のため、定期的に公開研究会を開催しています。

10月17日(土)  
 「飯田藩領寺社の基礎的考察」  
 講師：竹ノ内雅人(研究員)

11月28日(土)  
 「昭和17年11月の飯田市  
 一篠田貞三氏所蔵史料を中心に」  
 講師：本島和人(調査研究員)

場所：歴史研究所 2階研修室 時間：午後2時～4時

## 10月・11月の催事スケジュール

10月		2009	11月	
木	歴研ニュース』42発行	1日		
金		2月		
土	アカデミア第52講座	3火		
日		4水		松川高地域史講座・近世史
月		5木		
火	近世史ゼミ	6金		
水		7土		
木	近現代史ゼミ	8日		
金		9月		
土		10火		建築史ゼミ
日		11水		
月		12木		職場体験学習 鼎中 近現代史ゼミ
火	建築史ゼミ	13金		
水		14土		アカデミア第53講座
木		15日		
金		16月		
土	定例研究会	17火		近世史ゼミ
日		18水		
月		19木		松川高校地域史講座・建築史
火	近世史ゼミ	20金		
水		21土		南信濃村史料調査
木	近現代史ゼミ	22日		
金	県史料協講習会	23月		
土		24火		松川高校地域史講座・建築史
日		25水		
月		26木		近現代史ゼミ
火	職場体験学習 竜峡中	27金		
水		28土		定例研究会
木	松川高校地域史講座・近世史	29日		
金		30月		
土	地域史講座	31		

開所日 休所日

開所時間 午前9時～午後5時

休所日 日曜日、月曜日、祝日、12月29日～1月3日